

全力前進

東温市誕生 20 年、新たなる決意

今年は東温市が誕生して 20 周年を迎える節目の年。過去を振り返り、さらなる発展を見据える 1 年とする。令和 6 年第 1 回東温市議会定例会では加藤市長が施政方針を述べ、市政運営に対する決意を新たにした。2 期目の最終年度を迎える加藤市長の集大成となる本年、人口減少を乗り越えるためさまざまな対策を講じる。今月の広報は、令和 6 年度の施策や予算を施政方針とともにお伝えします。

私が 2 期目の市政運営を担わせていただいてから、3 年 3 カ月が経過し、本年は、その最終年度を迎えます。

私は就任以来、本市のまちづくりとして、「合併後の一体化」と、先人の育てた、この「住みよい、暮らしやすい東温市」を受け継ぎ、守り育て、さらに良くして、次の世代に渡すということを基本に、市民の皆さま、議員の皆さまのご理解、ご協力をいただきながら、職員と一丸となり、全力で市政運営に取り組んでまいりました。

2 期目就任後は、新型コロナウイルス感染症への対応に追われる日々でありましたが、昨年の 5 月から 5 類に移行となり、これまでの制限が緩和され、以前のような市民生活や地域イベントなどの再開により、賑わいが戻りつつあると実感してい

ます。

一方で、全国的に人口減少・少子高齢化が進展しており、昨年末に国立社会保障・人口問題研究所が公表した日本の地域別将来推計人口によると、本市の 2050 年の人口は 26,330 人と、5 年前の推計と比較すると減少幅は多少緩やかになったものの、依然として厳しい状況であることに変わりありません。人口減少対策については、全国的な問題でもあります。本市においても、喫緊の課題と捉え、令和 5 年度を「人口減少対策元年」と位置付け、各種施策に取り組んできました。

令和 6 年度も引き続き、積極的な対策を講じてまいります。

そのほか、気候変動やデジタル化への対応など、さまざまな分野での課題に対して、スピード感をもって取り組み、「市民の

皆さまの福祉向上」を目指すとともに、「温か笑顔の東温市」の実現に向けて、さらに全力前進してまいります。

また、本年 9 月には、東温市が誕生して 20 周年の節目を迎えます。

本市の礎を築いていただいた先人の皆さまはもとより、地域においてご尽力をいただいている皆さまに改めて深く感謝を申し上げます。

そして、本年度は、20 周年記念式典を始め、さまざまな記念事業を実施し、「ふるさと」と「おん」への愛着心を高めるとともに、「住みよい、暮らしやすい東温市」のさらなる発展を目指してまいります。

このことから、令和 6 年は、30 周年、50 周年への「礎」を築く年とも捉え、「ふるさと東温市」の将来を展望した「まちづくりの基盤」を整えてまいります。

東温市長
加藤 章

かとう・あきら

1948 年旧重信町生まれ。神戸大学卒業後、重信町役場入庁。旧 2 町の合併後、総務部長、副市長を歴任し、平成 28 年に東温市長へ就任。2 期最終年度。まちづくりのテーマは「温か笑顔の東温市」。趣味はスポーツ（サッカー）。



前進 未来への礎を築く

4

設備」、「マンホールトイレシステム」を指定避難所 3カ所に順次整備します。

また、自主防災組織に対して継続的な支援を行うとともに、地域防災のリーダーとなる防災士の育成を引き続き進めます。

持続可能な子育て支援や、障がい者福祉・高齢者福祉の充実したまちづくり

令和6年度から「子ども医療費助成事業」の対象年齢を高校卒業まで拡大するとともに、県との連携により、若年出産夫婦に対する補助事業を実施します。

また、妊娠時から出産・子育てまで一貫した「伴走型支援」により安心して出産、育児ができるよう相談支援の充実を図ります。

障がい者福祉は、令和6年度からスタートする「第7期障がい福祉計画」、「第3期障がい児福祉計画」に基づき支援の充実を図ります。

高齢者福祉も同様に「第9期高齢者保健福祉計画・介護

5

保険事業計画」に基づき、地域包括ケアシステムの深化・推進を図ります。

環境政策の推進による美しいまちづくり

「第2次東温市環境基本計画」に基づき、関係機関と連携しながら脱炭素社会の実現に向け取り組みます。

また、公共施設や橋梁の照明設備のLED化も継続して進め、消費電力の削減とCO₂排出量抑制により環境負荷の低減を図ります。

ごみ収集事業においては、適正な分別収集と不法投棄への対策を進めます。

環境施策の推進は、重信川の上流をあずかる東温市として重要な施策の一つとして位置付けており、「美しい東温市のまちづくり」を進めるために、欠かせない取り組みと考えています。

各種施策を全力で

以上、5つの柱に加えて、新規就農者の育成支援や森

1

みんなが元気になる健康福祉のまち

子どもの健診記録、予防接種記録などの管理や市からの子育て支援情報をプッシュ型で配信することができる「母子健康手帳アプリ」を導入し、子育て世代の生活環境に合わせた質の高いサービスを提供するとともに、子育て世帯の抱える出産や育児に対する不安の軽減を図ります。

高齢者福祉では、ごみ出し困難世帯を対象に「高齢者等ごみ出しサポート事業」を導

2

安全で快適な社会基盤のまち

また、公立保育所、幼稚園、認定こども園に防犯カメラを設置するなど、安全・安心な子育て環境の整備に努めます。

都市基盤の整備では、「東温スマートインターチェンジ」の開通により市民の利便性はもとより、物流の効率化、観光振興、災害時等の救急活動

20 周年を節目に、さらなる発展を目指す

2004 年9月 21 日に重信町、川内町が合併して誕生した「東温市」。ふるさとへの愛着心を高め、人口流出も食い止めたい。



全力 2 期目の集大成

1

市民の声を大切にするまちづくり

令和6年度の市政運営にあたって、公約として推進しております5つの政策の柱に基づき、基本方針を述べます。

まちづくりの基本として、市民の声に耳を傾けることが重要と考えております。市の課題や市民ニーズを把握するため、タウンミーティングを実施し、その声を市政に活かします。

また、「第2次総合計画」及び「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が令和7年度末に終期を迎えることから、令和6年度から次期総合計画・総合戦略の策定を進めます。策定にあたって、「市民アンケート」を実施いたします。

2

健康日本一の実現を目指す

市民一人ひとりが主体的に健康への関心を高める取り組みとして、東温市医師会や東温市歯科医師会、愛媛大学医学部附属病院、愛媛医療セン

3

災害に強い、安全安心のまちづくり

ターなどの協力による「健康づくり講座」や「健康フォーラム」を引き続き開催します。

また、運転免許の返納数が年々増加する中、中山間地域では通院の負担や健康について相談する場が少ないという声がある一方、平野部では、医師の人手不足や高齢化による医療サービスの質の低下が懸念されています。

こうした課題に対応するため、「とうおん健康医療創生事業」の枠組みを活用し、遠隔医療システム等のデジタル技術を活用した「とうおんスマートヘルスケア創出事業」により、健康寿命の延伸を図ります。

今般の能登半島地震を受け、「南海トラフ巨大地震」等の大規模災害に備え、防災資機材の整備を進めます。

さらに、大規模災害時の飲料水と生活用水を確保するため、40 m³の「飲料水兼用耐震性貯水槽」や「指定避難所空調

入し、負担の軽減を図ります。

障がい者施策では、生命・身体機能維持のため、在宅で電気式医療機器を使用している人が、災害時でも安心して日常生活を送れるよう「非常用電源」の購入費助成を行います。

子育て支援施策では、妊産婦・子育て家庭が安心して出産、子育てができるよう、子ども・子育て支援、保育に必要とされる支援に関する調査を行うとともに、令和5年12月に公表された国の「こども大綱」を勘案した「東温市こども計画」の策定も進めます。

また、公立保育所、幼稚園、認定こども園に防犯カメラを設置するなど、安全・安心な子育て環境の整備に努めます。

都市基盤の整備では、「東温スマートインターチェンジ」の開通により市民の利便性はもとより、物流の効率化、観光振興、災害時等の救急活動

発展 明るい未来へ

支援などが期待されます。

公園の再整備では、「重信川かわまちづくり」の一環として、国土交通省が整備を進める高水敷を有効活用するとともに、スマートインターチェンジ開通に伴う交通アクセスの良さを十分に活かし、独自の魅力を創出し、交流人口や関係人口の拡大、地域経済の活性化、さらには、人口減少対策に繋げていくため、桜づつみ公園から重信川緑地公園多目的広場までの区域を、サッカークラウンド、シクロクロスコース、遊具広場及びスケートパークの3つのエリアに分けて順次整備を進め、令和8年度の整備完了を目指します。

良好な住環境の形成では、空き家対策として「空家等対策計画」の改訂に取り組むとともに、地域おこし協力隊を活用した空き家の全数把握及びデータベース化を進めます。上下水道事業では、水道事業として「アセットマネジメント計画」に基づき、また、下水道事業として、「ストックマ

ネジメント手法」により、施設の改築・更新・耐震化等を効率的かつ計画的に実施します。

消防体制と防災・減災対策では、「松山圏域消防指令センター」を松山市消防局に開設し、本年4月から消防指令業務の共同運用を開始します。共同運用により、119番の受信や出動指令業務を消防指令センターで一括して行うことで、大規模災害が発生した場合も迅速な指令や応援体制が確保され、消防防災力の連携協力体制の強化が期待されます。

また、消防団施設整備、消防団車両整備や消防団員の育成に引き続き取り組み、地域防災力の向上に努めます。

3 創造性と活力に満ちた元気産業のまち

農林業の振興では、新規就農者の育成、確保を図る「新規就農研修センター」の整備支援を行い、本市での新規就農者の定着を推進します。

本年は「デジタル実装元年」
一層の利便性向上を目指します

商工業の振興では、「中小零細企業まるごと応援事業」として、新たなニーズに対応するため、「人材確保」と「労働環境整備」の補助メニューを新たに設け、中小零細企業を支援します。

企業誘致・留置の推進では、工業団地整備事業として、「田窪第2工業団地」は令和6年度に工事完成、産業用地の分譲を目指し、「吉久工業団地」は、令和7年度に工事完成、令和8年に産業用地分譲を目指して事業を進め、企業立地の促進を図り、積極的な企業誘致による安定した雇用の場を確保することにより人口減少対策にも繋げていきます。

4 心豊かに学びあう文化創造のまち

安全・安心な教育環境の整備では、学校施設大規模改修として、南吉井小学校及び拝志小学校の屋内運動場の長寿命化改修工事、川内中学校特別教室棟大規模改修工事、また、バリアフリー設備として

北吉井小学校エレベーター設置工事など、引き続き、教育環境の整備を進めます。次に、確かな学力を育てる教育の推進では、「GIGAスクール構想」の実現に向けて、引き続き、学校ICT環境の整備を進めます。

また、国・県が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、中学校における部活動の段階的な地域移行を推進します。

次に、文化・スポーツの推進では、20周年記念事業として、東温市誕生から20年の歩みを取りまとめた、「市史編纂事業」に取り組みます。

5 みんなでつくる協働・自立のまち

市民と行政との協働のまちづくりの推進では、20周年の記念事業として、7年ぶりに「東温市民ミュージカル」を開催します。本市の偉人や地域等を題材とした新たな市民主体の舞台演劇作品を制作し、

上演すること、市民と行政との協働のまちづくりをより一層推進し、市の魅力向上や愛着心の醸成を図るとともに、移住・定住の促進にも繋げていきたいと考えています。次に、デジタル化の推進では、「東温市デジタル化マスタープラン」に基づき、各種行政手続きのオンライン化や業務効率化を目的とする庁内のシステム環境等の整備などに取り組んできました。今後はより一層市民サービスの向上を目指すため、DX推進体制を強化し、全庁横断的にDXを推進します。

また、令和6年度から、本格的に市民の利便性向上に繋がるデジタル化に取り組むことから、本年を「デジタル実装元年」と位置付け、デジタル化の推進を図ります。本年度は、国のデジタル田園都市国家構想交付金も活用しながら、「とうおんスマートヘルスケア創出事業」や「母子健康手帳アプリ」の導入、タブレットを活用した「要介護認定訪問調査及び介護・障害

認定審査会システム」の導入さらに、24時間利用できる「コンビニエンスストアでの収納サービス」の導入に取り組みます。

また、市民の皆さまの身近な手続きにおいて、「書かない」「待たない」「回らない」「ユーザー本位のあたたかい窓口」を令和7年度中の導入に向けて「窓口DX推進事業」に取り組みます。

今後も引き続き、国が成長戦略の最も重要な柱とするデジタル田園都市国家構想に位置付ける取り組みをはじめ、日々進化するデジタル技術を活用した施策を推進します。

人口減少・少子高齢化や物価高騰など社会情勢の影響により、さらには厳しい財政運営など、難しい課題に直面していますが、本市が取り組む施策の全てが、人口減少対策に繋がっていくと考えています。2期目の集大成として誰もが希望と愛着を持てる「温か笑顔の東温市」の実現に向けて、全力前進していきます。

「温か笑顔の東温市」の
実現に向けて全力前進

人口減少・少子高齢化や物価高騰など先行き厳しい時代を乗り切るために「チーム東温」一丸で前進あるのみ。市政スタート時に掲げた「全力前進」を貫く。

あつた
温か
笑顔